

ナラ枯れの対応について

カシノナガキクイムシ(カシナガ)の大発生によってコナラ等の樹木が枯死する「ナラ枯れ」が発生している。ナラ枯れの拡大を防ぐためにも、ナラ枯れ被害木の駆除や、健全木へのカシナガの侵入を防ぐ予防措置を行う必要がある。

基本的な対応

(既に発生している場所での対応)

- 前年までにカシナガの穿孔を受けた樹木は、翌年 5 月～7 月頃にかけて脱出し、新しい健全木に穿孔するため、5 月までに処置の必要な樹木を選定する。被害にあうと樹木の地際に大量の木くず(フラス)が発生するため、木くずをもとに被害木を探す。
- 枯死木は翌年大量にカシナガが脱出するため、3 月までに伐採し、焼却またはチップ化(あるいは薪にして乾燥)する。切り株にもカシナガがいるため除去するのが望ましいが、困難な場合は粘着トラップ(かしながホイホイ、アース製菓)等の資材で被覆し、翌年 5 月以降の成虫の脱出を阻止する。
- カシナガの穿孔を受けたが枯死していない樹木も翌年の感染源となり得ることから、カシナガの穿孔数が多い場合、5 月までに脱出防止措置を執る。地際部の特に穿孔数の多い場所を中心に、粘着トラップを設置する。

(新規発生への対応)

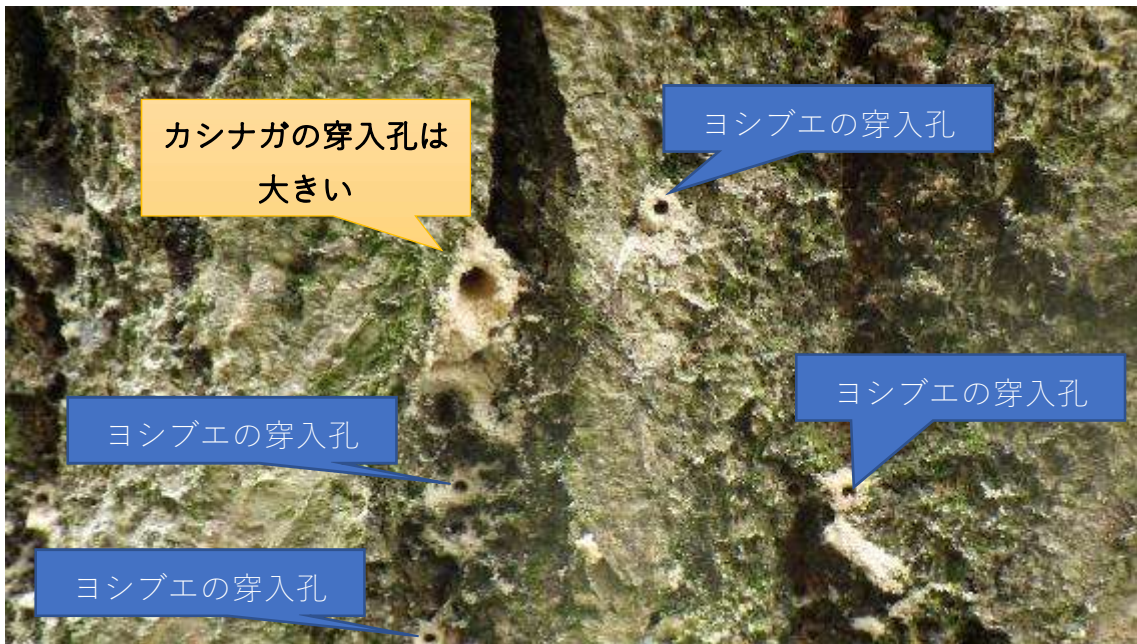
- 被害木は、8 月～9 月頃に急速に葉が萎れ、赤褐色に変色して枯死する。枯死木の地際にはフラスが堆積している。樹幹に 1.5～2mm 程度の穴が多数開いていればカシナガの可能性が高い。枯死木が発生した場所の周囲には、枯死していないがカシナガが穿孔している樹木が多数あるため、被害状況を把握する。調査は紅葉が始まる前(11 月頃)までに実施する。

対応スケジュール

	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
被害木の選定	←→				←→						
点検：定期巡回	←→	←→	←→	←→	←→	←→	←→	←→	←→	←→	←→
脱出防止措置	←→	←→	←→	←→	←→						
伐採駆除							←→	←→	←→	←→	←→



ナラ枯れ被害木の地際部には大量の木くずが堆積する



樹幹にはカシナガの穿孔した穴が多数あいているが、カシナガの近縁種のヨシブエナガキクイムシ (ヨシブエ) が穿孔する場合もあるので穴の大きさの判別は注意が必要 (ヨシブエの場合は積極的に駆除する必要性は低い)



穿孔の多い箇所を中心にかしながらホイホイを設置する。幹にぴったりと巻き付けるより、あえて隙間を作るようにふんわりと巻き付ける。地際部に多数穿孔している場合が多いので、穿孔状況に注意する。

*根張りなど不整形な場所にはかしながらホイホイフリー（不織布製）が便利。